様式1（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	小城市立小城中学校
1　前年度 評価結果の概要	・授業と家庭学習の連携を強化し、学力向上を目指す必要がある。 ・不登校対策のために、外部機関と連携や教育相談などを通し、生徒理解を図り、適切に対応できた教員が9割と高い割合である。 ・特別支援教育に対する理解をさらに深め、個に応じた支援の充実を図る。
2　学校教育目標	自他を認め合い、共に学び続ける生徒の育成
3　本年度の重点目標	・主体性をもち、正しい判断・行動ができる生徒の育成。（校内研究との連動） ・情報交換を密にし、明るく前向きに取り組む職員集団の形成。 ・生徒理解、特別支援教育の充実。 ・ICT利活用の推進。

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●生徒が主体的に学びに向かうための「学習環境の整備推進」「学習方法の検討」	○生徒・保護者による学校評価アンケートで「落ち着いた雰囲気で学習できる」が8割以上とする。 ○「ペア学習・グループ学習・タブレット活用学習などさまざまな学習法がとられている」が8割を超える。	・授業に集中できるよう教室内掲示物の精選、授業の流れの提示をする。 ・「授業のねらい」を達成できるよう、視点を明確にした学び合い学習に取り組む。		・				・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事後の生徒アンケートで、自分の役割に対して意欲的に取り組めたと答える生徒の割合を80%以上にする。 ○自分の考えを伝えることができる、友達の意見を受け入れることができると答える生徒の割合を75%以上にする。	・学校行事で生徒に役割を与え、生徒が主体的に活動する場面を設定する。 ・教師から生徒だけでなく、生徒間での相互承認の場を設定する。 ・道徳での感想を掲示したり知らせたりする。 ・学習の場面で、ペア活動やグループ活動を設定し、自他の意見を伝え合う場面を設ける。		・				・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校生活を楽しく過ごしていると回答する生徒の割合を95%以上にする。 ○相談事等、先生は丁寧に対応してくれると回答する割合を95%以上にする。	・アンケートの充実（月1回）と保護者との連携で、いじめを未然に防止する。 ・いじめに関する職員研修を行っていき、いじめに対する職員の意識を高める。 ・職員研修を通して、児童生徒にとって、分かる授業や自己有用感がもてる取り組みを実践していく。		・		・		・	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・キャリアパスポートに、進路実現にむけての情報（職業調べ・職場体験・マナー検定・高校説明会）をまとめさせる。 ・地域教材を利用した教科や総合的な学習の時間の充実を図る。		・		・		・	
	○人権・同和教育の充実	○教科担任と学級担任、副担任等が連携して差別や人権に関する授業を年間に1回以上は行う。	・社会科で差別や人権に関する授業を実施する際は、事前に学年で検討会を設け、教科担当と学級担任、副担任等が連携した授業を行う。		・		・		・	
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・給食時間の放送、給食指導、食育授業、各種便りを通して、朝食の大切さについて理解させる。また、県の早寝・早起き・朝ごはんの資料を活用し、家庭との連携を図る。 ・保健だよりや掲示物等の活用、保体委員会と連携を図りながら学校保健活動を行う。 ・ 保健の授業で運動と食事の重要性について指導を行う。また、長期休みの過ごし方や運動習慣についての通信を発行する。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動ガイドラインに沿って、練習時間、休養日を遵守する。定時退勤を促す。 ・定期テスト、始業式や終業式の午後には会議を入れずに年休取得推進日とする。 ・公務支援システムの有効活用を推し進める。		・		・		・	
	○教職員の健康管理に関して、働きやすい職場体制づくり	○職員アンケートで、校務分掌は分担し、組織的・計画的に取り組む職員の割合を85%以上にする。	・毎週実施している企画委員会でも、時間外勤務の状況を知らせ職員間で共有し改善を図る。 ・人間ドックなどの再検査を必ず受診させる。		・		・		・	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する正しい知識の共有と生徒理解	○「特別の教育課程」に対する理解を深め、適切な運用を行って生徒支援に努めた教職員の割合を80%以上にする。	・SC部会や長期休業中の研修などを実施して、全職員が特別支援教育に関する正しい知識に基づいて教育活動を行う。		・		・		・	

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○不登校対策の充実	○不登校未然防止対策と不登校支援の充実	○未然防止のため教育相談アンケートを年に2回実施分析をし、傾向を把握する。 ○2回目のQUアンケートの学校生活満足の生徒の割合を年度当初より上回る。 ○教室に入れない別室登校生徒の進路実現を図る。	・教育相談週間の充実とその後の迅速な生徒対応を図る。 ・校内教育支援センター「スマイルルーム」、SC、SSW、SSF、福祉課など関係者による情報交換会の実施及び関係機関との連携を図る。 ・職員研修を実施する。 ・校内教育支援センター「スマイルルーム」と教育相談担当、担任、学年職員が連携をしながら支援する。		・		・		・	
○ICT利活用の推進	○タブレットを有効に活用できる生徒の育成・教育活動の充実	○ICT活用が自分の学びに役立っていると答えた生徒を80%以上にする。	・利用の仕方や保管方法などを見直し、必要な時にすぐに利用できる環境を作る。 ・学校行事でタブレットを活用する場面を多く設定する。		・		・		・	

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・